

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671400196		
法人名	社会福祉法人 京都南山城会		
事業所名	グループホーム山城ぬもりの里		
所在地	〒619-0204京都府木津川市山城町上狛小杉谷6番地		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671400196&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	平成24年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームと隣接して建てられているため、医療、看護、介護の連携がとり易く、安心、安全な暮らしが送れている。敷地はゆったりとしたスペースで、玄関をはさんで2ユニットがあり、ご利用様はどちらでも移動して過ごすことができ、中庭や、裏の畑では、季節の花や、野菜、果物などを楽しむことができる。趣味のサークル活動も多く参加でき、それぞれ好みの趣味を楽しまれている。
家族会のご協力もあり、ご利用者様との行事や、グループホームの運営にご協力いただき、家族的雰囲気、暖かいグループホームとなっている。法人のバックアップにより、職員の質の向上にむけ、内外の研修に多く参加しており、職員の離職率が低い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住環境面では、居間ははじめ共有空間は比較的ゆとりがある。屋内は壁、建具、調度品等から個人の家を訪ねたような家庭的な雰囲気に浸れる。窓や天窓から室内に届く採光は、認知症の人達が暮らす生活空間として関係者の暖かくかつ周到な設計姿勢が感じ取れる。ホームは小高い丘の上に建ち、広がりある山城地域の畑や街並みが見渡せ、利用者にとってなじみ深い土地、光景を日々眺めることのできる場所にある。ケアの面では法人の理念・「介護方針」に挙げられている「人権の尊重」、「生活の質」、「身体拘束ゼロ」などをケアの基盤に据え、総合施設の機能を活かし、横断的な委員会体制のもと多角的な検討と、職員間の情報の共有化をはかり、職員が一体となり実践に向け取り組んでいる。法人理念・ケアの具体化は、設立2年目に設けられた「重度化対応及び看取り介護指針」のもとに、法人が一体となり「暮らしの中のターミナルケア」として取り組まれている実践から理解が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え合い微笑みあって安心して住める家～今日も笑顔で家族のように」という理念の下、常に意識して実践している。	法人の目指す施設の使命・介護方針を踏まえた事業所目標を設けている。目標は利用者・職員でタイル細工の作品にし玄関に掛けてある。笑顔で家族のような生活を目指す実践は家族の感想、お便りの写真から把握できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	特養、ケアハウスへは毎日出かけられる方もあり、買い物も市内のスーパーに出かけている。食材のなかには、地域の商店に配達してもらっているものもある。運動会や入学式など地域の行事等にも参加している。	自治会に入っていないが、地元の溝掃除や空き缶拾いに参加している。「世代間交流事業」に出かけ、保育園児や小学生と交わり、満面の笑顔でカルタや、百人一首、餅つきに興じている。学校の入学式、卒後式にも出席し、恒例になった夏祭りは地域の大人も子供も大勢が集まる大きな交流行事になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回夏祭りを開催し、地域の方に来ていただき、楽しんでいただいている。地域行事に参加することで、交流の場を持ち、理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者様の状況報告、行事報告、課題などについて意見交換し、サービスの向上に活かしている。	会議のメンバーは家族、市介護保険課長、施設長を含む職員である。事業報告、利用者の様子、「家族会」の報告をしている。家族から利用者の重度化に伴う職員体制を案じる発言等が交わされ、ホーム側は実情を説明し、内容によっては職員会議で検討し返事をしている。	地元の町会関係者や民生委員や老人相談員などの会議参加により、地域の独居高齢者の状況などを含む幅広い情報交換を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営協議会での意見交換、居宅支援事業者を通してサービスに活かせる情報を得たり、分からない事を聞いてもらっている。	市担当課には相談等があれば出かけている。運営推進会議への課長の参加もあり事業の様子は理解を得ている。管内の関係機関対象に情報連絡会等の場が、担当課により設けられることをホームは期待している。	「地域包括ケアシステム」の構築に向けては、地域を代表する法人としての役割や活躍を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会が毎月開催され、活動を通じて、常に拘束をしない介護につとめている。安全の為、17時から朝8時までには玄関に施錠している。	法人は介護方針に「身体拘束ゼロ」を明記、法人内部全事業参加の身体拘束委員会を組織化している。ホーム委員は委員会の協議事項の報告や、現場の意見などを集約し係っている。法人全体は、現在「言葉遣い」に注意している。年2回身体拘束に関するアンケートを取り、拘束に関する振り返りを行っている。	

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろいろ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ推進委員会の活動で、アンケートを定期的に行うなど、虐待について常に考え、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内勉強会にて、成年後見人制度について学んだ。実際に利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分な説明を行い、解約に関しても事前に相談の機会を持ち十分な検討を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営協議会の開催、意見箱の設置、満足度調査などにより、ご家族の意見をお聞きし運営に反映させている。	「家族会」を行事に合わせ開催し、参加家族はお互いの介護の苦労などを話し合い交流している。家族会の会長が運営推進会議の家族代表となり、忌憚のない意見を述べている。全組織で満足度調査も実施している。家族には「ほほえみ便り」で行事報告やホームの生活、利用者一人ひとりの暮らしを手紙のように書き送り、家族は感謝している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員の意見や提案を聞き、いい意見は取り入れ、運営に反映させている。	職員会議は職員ほぼ全員出席のもと月1回、夕方から2時間弱、事故やヒヤリハット、ケース検討等をしている。申し送りは朝・夕行い、同時間帯に法人合同の「朝の連絡会」にホーム職員も出席し、法人全体の情報を共有している。各職員は自己評価・目標を提出し、管理者・施設長による個別面談の機会があり意見の交換、要望を述べている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価に基づき個々に面談を行い、代表者と話す機会を持ち向上心が持てるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に個々の能力、経験に基づき参加させ、会議で勉強会を持ち、日々のケアに活かせるように努めている。今年度は認知症ケア研修に全職員が参加し、質の向上を図った。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のGHとの交流、研修参加による他の同業者との交流、ケアマネ部会などへの参加により、ネットワーク作りなど行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートにより、心身の状態を把握した上で、御本人の希望など傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシート作成時に、ご家族様の要望などお聞きしながら、安心して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の状態を知り、まず必要とされる支援を見極め他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、買い物など、家事を共に行い昔の習慣などお聞きしながら、共に助けあう関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様について、報告、相談を常に行いながら、ご家族の絆を大切に共に支えあう関係を築けている。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育って来られた場所への訪問や、会いたいと思っておられる方とは、毎日会っておられる方もあり、関係が継続できるように支援に努めている。	夫婦でホームとケアハウスの利用者がおられ、毎日夫が来られる。娘が毎週顔を見に来られたり、孫と共に1日に何度も来られる家族もある。職員はお茶をだし居心地良く過ごされるよう配慮している。近所の利用者の元実家に同行し、利用者の感激と反応に職員も強く心打たれる経験を味わっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格や、日頃の関わりの中で、ご利用者様同士が上手く関われるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院の為、退所された方であってもご家族様との連絡をとったり、お見舞いに伺っている。ホームへ入所された方にも会いに行ったり、ホームスタッフとの情報の共有に勤めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、御本人の希望などお聞きしている。意思疎通困難な方は、日頃関わるなかで、御本人の希望を汲み取るようにしている。	利用にあたってはケアマネジャーの情報や、主治医の申し送り書をもらい活用すると共に、本人や家族の思いを聞き、家族からセンター方式の「私の生活史」、「私の療養シート」、「私の暮らし方」を書き込んでもらい情報把握をしている。ホーム利用後は生活場面での訴え、気づき等から意向や思いを職員全員で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入所時に、ご家族様に記入していただいている。その中で、御本人様の暮らし方、サービス利用に至った経過など、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴に加え、日々の関わりの中でできること、支援の必要な部分などを把握するように努めている。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制により、ご利用者様、ご家族様と課題やケアについて話しをし、カンファレンスや毎月のモニタリングにより、ケアプランに活かすようにしている。	介護計画はケアマネジャーが作成し、職員会議で検討している。介護計画の中の短期計画の目標項目が多い利用者が見受けられる。定例のケース会議は夕方から開催されており、この場の家族の参加はない。	介護計画の項目を今一度整理し、優先順位をつけるなどの検討も併せ取り組まれることが望まれる。面会時を利用し、介護計画に係る家族との話し合いを持ち、モニタリングに活かすことが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアはカルテに記入し、職員間で、情報を共有し、実践している。介護計画の見直しはカンファレンスなどで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況やニーズに対応し、外出や通院介助などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、サークル活動や傾聴など、ご利用者様の暮らしを共に支えあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をとり、適切な医療が受けられるような体制となっている。	地元のかかりつけ医を主治医としている人、法人の医師が主治医の人もある。地元のかかりつけ医には往診をしてもらっている。認知症専門医の受診をしている人もあり、新薬服用を始めた利用者の様子を記録し医師に報告している。医療面の連携はかかりつけ医、法人の医療体制により確保できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ホームから看護師がご利用者様の状態の把握にきており、適切な支援を受けている。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろいろ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の地域医療連携室と常に連絡をとり、ご利用者様の状態や今後について相談している。退院前カンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの指針に基づき、ご家族様より看取り介護の署名をいただき、十分説明をしながら、かかりつけ医とも連携をとりながらチームで支援にとりくんでいる。	平成18年4月1日付けで、法人として「重度化対応及び看取り介護指針」を策定している。ターミナル委員会が設けられ、ホームも委員を会議に出している。手続き、各職種の体制、役割、教育等が定められ、提供された情報は現場に持ち帰り共有している。ホームでは開設来4名の看取りの経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はホーム看護師やかかりつけ医と連絡をとる初期対応の仕方を会議で確認している。応急処置についてはすべてのスタッフが身につけているとは限らない。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的を実施し、消防との連携を図っている。	消防署立会いの下に年間2回夜間想定を含め行っている。市自衛消防団に職員も入っており、防災面の知識や情報は詳しい。所内の緊急時連絡一覧と共に、地域の連絡を備えている。備蓄は3日間確保している。なお法人施設は周辺地域の福祉避難所となっており木津川市と締結している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの尊厳を守ることを大切に、言葉遣いや対応に気をつけている。	介護方針のトップに「人権の尊重」を挙げ、身体拘束ゼロの支援に努め、目線や言葉遣いに注意し、居室内の介助にもプライバシーに注意し支援している。個人情報も第三者の目に触れないよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様お一人おひとりの思いに寄り添い、御本人の意思を引き出す声かけを行っている。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろいろ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースに合わせ、思いに寄り添ったケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は好みの店でしてもらっている。整容は自分で出来る方は自分でしていただき、出来ない方はスタッフが介助し、常に身支度を整えている。外出の時はいつもより、おしゃれして、出かけられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全て好みのものとはいかないが、できることはしていただき、ながら、スタッフと共に、準備食事片付けをしている。いろいろは重度化により、できる方が少なくなっている。	重度化に伴い、調理などへの参加が厳しくなっている。座って野菜の皮をむく等限られても、出来ることを見出せるよう支援している。昼食については利用者と共に過ごす時間を優先し、家族とも話し合いレトルト食品に切り替えた。食事は職員も共に食べ・介助しつつ、おしゃべりし和気あいあいと過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分摂取量の少ない方など重点的に摂っていただけるように支援し、チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けしたり、スタッフが介助し、口腔ケアを行っている。年1回の歯科検診の実施等により、歯の衛生管理に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や、オムツの使用を減らすため、少し早めの声掛けや、パターンに合わせトイレ誘導を行っている。	排泄パターンに沿ってトイレの声かけ、誘導をしている。歩行困難であるが、最後までトイレに行き排泄したいとの強い要望に、職員間で話し合い、日々機能強化のための訓練や介助・見守りをケアプランに落とし支援している。	

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろいろ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘気味の方には、水分摂取や、乳酸飲料の提供など、個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めさせていただいているが、ご利用者様の希望や、タイミングにより、ずらしたり、柔軟に対応している。	週2回を入浴日としているが、希望やタイミング等に応じ柔軟に対応している。冷えやむくみの解消に足浴をする場合もある。庭で採れたみかんの皮やゆづをいれ、季節を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により、日中臥床していただく方もありますが、夜間は安心して良く休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明を読み、理解して服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのできることや、好きなことなどを把握し、日々の生活のなかで役割を持っていただいたり、趣味のサークル活動への参加、外出などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化が進み、全員参加は年1回の家族旅行や初詣ぐらいに減ったが、四季折々の外出を楽しんでいただいている。ご家族様にも声かけし、一緒に行っていただいている。	日常的には、ホーム周辺の散歩、ごみ捨てがてらの散歩、併設施設で行われる趣味の教室や催しに出向くなど、利用者の身体状況に合わせ外出の機会を工夫し支援している。年間行事として月1回ユニット外出、利用者全員と家族で出かける日帰り旅行、食事会、季節に合わせた初詣など体調管理等に配慮しつつ支援している。	認知症に理解あるボランティアを、外出支援の際の「支援サポーター」として、体験実習等を含む養成事業は出来ないだろうか。

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットいろいろ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はなく、ご希望があれば、ご家族了解のもと立替えて購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話していただいたり、ハガキを出したりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全フロアバリアフリーとなっており、明るく開放的で、スペースもゆったりととってあり、中庭には季節の花を配置し、楽しんでいただいている。裏の畑では、野菜を育て、季節感を、目と味で楽しんでいただいている。	玄関に入ると屋内は木を基調に、個人のお宅を訪ねたような家庭的なぬくもりのある雰囲気がある。採光等を配慮した窓や、天窓からの光線と屋内の間接照明で居間や廊下を落ち着いた空間にしている。ダイニングは床暖房になっており、適度な室温に調整されている。こじんまりしたホールは外来者等との談笑に適した空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で過ごすことが一番安心されているが、ご利用者様のお好きな場所で過ごして頂けるようソファなどを配置し、両ユニットを自由に散策していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具などを持ってきていただくよう声かけしており、御本人が安心できるよう工夫している。	居室の窓や、引き戸は障子張りになっていて、唐紙を通した光線が室内を懐かしい空間にしている。各室に洗面台が設けられ化粧品が置かれ、テレビ、筆筒、写真や絵、書などが壁に飾られ、こじんまりした中に居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーで、要所要所に手すりを設置しており、ご利用者様の状態に合わせて、安全に移動できる力を継続していただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え合い、微笑みあって安心して住める家～今日も笑顔で家族のように～」という理念の下、ご利用者の方々にそう思っただけよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の食材や消耗品を地域の商店で購入することで、地域とのつながりが継続できるように交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回夏祭りを開催し、地域の方に来ていただき、楽しんでいただいている。地域行事に参加することで、交流の場を持ち、理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者の状態や日々の状況を報告している。またその際の意見は話し合い、よりよいサービスに繋がるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営協議会での意見交換、居宅支援事業者を通してサービスに活かせる情報を得たり、分からない事を聞いてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会が毎月開催され、活動を通じて、常に拘束をしない介護につとめている。安全の為、17時から朝8時までは玄関に施錠している。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットつくばい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ推進委員会の活動で、アンケートを定期的に行うなど、虐待について常に考え、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会にて、成年後見人制度について学んだ。実際に利用され入所された方があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり十分な説明を行い、何でも聞いて頂けるよう声掛けをして、理解・納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営協議会の開催、意見箱の設置、満足度調査などにより、ご家族の意見をお聞きし運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談、月1回の職員会議で意見を聞き検討しており、それ以外にも随時、意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価＋個人面談により、直接代表者と話す機会を設け、向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に個々の能力、経験に基づき参加させ、会議で勉強会を持ち、日々のケアに活かせるように努めている。今年度は認知症ケア研修に全職員が参加し、質の向上を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ部会やブロックの勉強会、事例研究発表などに参加し交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主に計画作成担当者が行っており、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に計画作成担当者が行っており、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の暮らしの中での悩みや希望を聞かせて頂き、必要なサービスを提供するよう努めている。相談内容は記録している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や裁縫など教えて頂く事も多く、共に暮らす家族のような関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者についてはご家族に何でも報告し、相談させていただいており、いつでも気軽に来いただき共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人内に昔なじみの方がおられる場合に交流を図ったり、馴染みの場所に出かけるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や趣味を把握し、また得意な事を活かせるように席を工夫したり、関係がうまく築けるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には、その後の様子をお聞きしたり、他施設入所の方には訪問、入院された方にはお見舞いに伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりから、ご本人の思いや意向を引き出せるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に記入していただいている他、ご本人からも聞き取りを行い情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を読み、自分自身でも関わり、観察を行なう事で状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いの場を持ってご本人の希望や意向を聞きだすのは難しく、カンファレンスも職員のみ参加であるが、面会に来られたときにご家族の意見もお聞きして介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテや行動実施表に毎日記録して、情報を共有し実践している。毎月末に評価し、介護計画に活かしている。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットつくばい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて柔軟に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、手芸、短歌などのサークル活動や、夏祭りで協力して頂いており、ご利用者の方々と共に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に沿って、地域のかかりつけ医や歯科の往診にも来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師と連携体制ができており、毎日ご利用者の状態を報告し、必要な看護や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も、出来るだけ早く退院できるように、ご家族や病院関係者と相談・連絡をとり、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、入所時に説明している。状態により主治医を含めて話し合いを行い、方針を共有している。その上でチームケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施していないので全ての職員に応急手当や初期対応の実践力は身につけていないと思うが、随時、消防の救命士による普通救命講習会に参加している。内部研修や勉強会もある。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットつくばい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、消防署の指導のもと、昼・夜の設定で定期的に避難訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守る対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定できる問いかけを行っており、選択や決定は任せている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースに合わせて過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容などは好きな店でできるように支援している。ご自分でできる方はお化粧品もされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも好みの献立にはなっていないと思うが、準備・食事・片付けは一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を把握し、必要な方には食事と水分の摂取量を記録して、個々に応じた支援をしている。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットつくばい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じて、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、オムツを使用されている方はおられず、声掛けや誘導が必要な方は排泄パターンを知り、出来る所はご自分でしていただきながら、個々に合った支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に配慮し、乳酸菌飲料も飲んで頂くなど工夫している。身体を動かしたり、歩行を促す声掛けも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	だいたい入浴日は決まっているが、希望によって変更も可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や希望によって休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を読み、理解している。確認もすぐにはできるよう、ファイルに綴じている。服薬による状態の変化などはカルテに記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や好きな事を把握し、楽しく過ごせるように役割を持っていただいたり、サークル活動に参加していただいている。		

京都府 グループホーム 山城ぬくもりの里 ユニットつくばい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をお聞きしたり、馴染みの場所への外出を企画している。ご家族にも一緒に行っていただけるように声掛けもおこなっている。また個々にご家族と外出されることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持されておらず、買い物の時などは、好きなものを選んでいただき立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯をもっておられる方が1名おられ、それ以外の方も希望があれば電話をしていただける。手紙のやりとりもあり、年賀状や絵手紙も出していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的で段差はなく、皆で作成したタイル細工のカレンダーや季節に合った飾りをしている。テラスや畑には季節の花や野菜を植えて育てている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で気の合う方と過ごせるようソファや椅子を所々に設置し、床にカーペットを敷いてテレビも設置した寛ぎスペースもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使いなれた馴染みのものを持参して頂くように説明し、安心して過ごせる居場所作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、安全に移動ができる。各居室には表札を設置しており自立した生活が送れるスペースを確保している。またトイレには「御手洗」と表示して分かりやすくしている。		